



生きる力を育む

教育環境を取り巻く情勢は、国際化、情報化、科学技術の進歩、少子高齢化や経済情勢の変化等、社会全体が大きく複雑かつ急速に変化しており、新しい時代を積極果敢に築き上げて行く進取の気概を持った人材を育成していくことが強く求められる時代となっており、次世代を担う子どもたち一人ひとりがしっかりと自立し、生き生きと活躍できる実践的な力身につけさせることが不可欠であります。

今、教育基本法や学習指導要領の改正に伴い、「生きる力を育む」という基本理念はますます重要性を増しており、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう基本的な知識および技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことが最も大切となっております。

また、東日本大震災、原発事故に伴う放射能汚染、CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）削減、エネルギー資源等災害や環境問題に対する指導、対策が将来を担う子どもたちのためにも新たな重要な課題であると思っております。

このような時代背景や教育改革等難しい対応が迫られる時代の流れの中で、様々な教育課題の解決のため学校・家庭・地域社会が、それぞれの役割と責任をしっかりと果たし、全体の教育力向上、意識の高揚を図りながら密接に連携を取り、一体となった取り組みを積極的に行っていくことが必要となつてまいります。その結果として、新しい時代を担う子どもたちが、自ら学び、自ら考え、主体的

に判断し行動できる能力をしっかりと身につけ、強い心・思いやりの心・豊かな感性を持った人間として健やかに成長し立派な社会人となることを期待するところであります。

過去数年間行われた、全国・学力学習状況調査、全国体力・運動能力・運動習慣テストの結果、当町の子どもたち、特に中学生は全道・全国平均を上回る結果となっておりますが、決して満足のいく結果とは言えません。調査結果から基礎・基本の定着、学習習慣や生活習慣に課題が見受けられることから、授業改善と家庭学習を積極的に進めると同時に、研修等を通して教職員の資質向上、北海道で推進しているトリプルUP！事業の活用、学校支援地域本部事業等、各学校の実情に合わせた対策を学校・家庭・地域が一体となり総合的に進めてまいります。

今、学習指導要領の改正や教育課程の見直しにより、授業時数の増加、新しい事業の導入、教科書の改定等、子どもたちや教職員に対する新たな負担が求められる厳しい状況となっております。教育委員会としても現状を的確にと

らえ、子どもたちや教職員が安全で安心して学び、指導することができる環境整備の充実を物心両面から整備を図ってまいります。

また、教育委員会評価、学校評価、学校評議員、議会や町民の皆さまより寄せられた意見・要望等参酌、検討すると同時に、教育行政推進の現状を積極的に公表し教育機関としての役割を果たしていきたいと思っております。

今後、国や道の動向などに傾注しながら、第5期剣淵町総合計画、剣淵町教育目標、第10次剣淵町中期社会教育振興計画、上川教育推進プランさらには、各学校の運営方針等を踏まえ、平成24年度は①確かな学びを支える魅力ある教育環境づくり②学校・家庭・地域の責任と連携による教育活動の推進③安全で安心して学び・食すことのできる教育環境の整備④生涯学習の推進と文化・スポーツの振興の4点を重点目標として、教育行政を積極的に推進してまいります。

学校教育の推進

学校教育では、「生きる力を育む」という基本理念のもと、学習指導要領が大きく改正され、各学校に

において基礎的、基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学習意欲の向上や学習習慣の確立、豊かな心や健やかな体を基本とした教育課程の編成を行い、生きるための地域の実情にあった特色ある教育活動を推進していくことが重要であります。

小学校においては平成23年度から、中学校においては平成24年度から新学習指導要領により、新しい教科書、授業時数の増加のもとでの言語活動の充実、体験活動の充実、理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、道徳教育の充実、外国語活動の充実、武道・伝承音楽等を取り入れた授業を基本に学校教育を進めていかなければなりません。児童生徒や教職員にとっても大変厳しい対応が迫られることになってまいります。

このような状況の中で教育委員会として、子どもたちや教職員が安全で安心して学び、指導できる教育環境の整備、充実に向け、万全を期して進めてまいります。

教育改革、経済状況の変化や学校評価・各種調査の結果をふまえての指導対策や過去に実施された全国学力・学習状況調査、全国体

力・運動能力・運動習慣調査の結果明らかになった内容と課題について、各学校において、子どもたちの発達段階に合った確かな学力や体力向上に向けた改善策の定着化が必要であると考えております。

また、多様化するいじめ、不登校、児童虐待や進学・就職の問題等児童生徒を取り巻く環境は大変厳しい状況となっております。様々な課題解決のため、これからは学校・家庭・地域が共通理解の上でそれぞれがしっかりと責任を果し、連携を図りながら教育活動を進めていくことが、将来を担う子どもたちにとって大切であると思っております。

北海道教育委員会は今までの全国学力・学習状況調査等の結果、全国に比べ非常に低い事から平成26年度の調査までに学力を全国平均以上としていくとしております。幸いにして剣淵町の子どもたちは一部を除き全道・全国平均を上回る結果となっておりますが決して満足のいくものではありません。調査の結果、基礎・基本の定着、応用・活用の問題が苦手であり学習習慣や生活習慣に多少の課題があるとの結果が出ており、各

学校において十分分析を行い、実情にあった対策改善策が必要であります。昨年に引き続き学力・体力向上に向けた対策として、読書や朝学習、家庭学習等の学習習慣の奨励、「早寝・早起き・朝ごはん」や歩くこと、一日一運動等の生活

習慣の奨励を積極的に進めてまいります。学力向上対策事業の一環として、学校図書整備、学校支援地域本部事業で生活習慣カレンダーの作成活用、習字教室、そばん教室、スキー学習、学校農園の整備、教育を考える集いの支援等、事業内容に改善を加え、関係者に理解を得ながら積極的にサポートしてまいります。また、特色ある学校づくり交付金を活用して中学校で実施している各種検定補助について多くの生徒が積極的にトライし高成績を上げる等、学力向上にも繋がっていることから継続して支援してまいります。

平成24年度に実施される全国学力・学習状況調査について、新たに理科が加わる中で、各学校、希望利用、抽出調査により参加を予定しております。また、3年ごとに行われている、全国体力・運動能力・運動習慣等調査について

も小・中・高すべての学年を対象に実施を予定しております。

過去の調査の結果、規則正しい食生活や生活習慣が、学力や体力に与える影響が大きく関わっていることから、正しい食の知識や望ましい食習慣を身につけるため、農業・自然体験学習や給食の時間等を通して学級担任や栄養教諭の連携指導さらには、高等学校や地域の協力を得ながら食育・食農教育の充実・推進に努めてまいります。

姉妹都市である射水市の子どもたちとの一層の交流と理解を深めるため、特産品を利用した学校給食交流を予定しております。また疎遠となりがちな家族とのコミュニケーションを深め、自ら食に関する様々な知識を高めるため年2回の弁当の日を設け試行的に実施したいと思っております。

学習指導要領等の改正に伴い、地球温暖化の観点から自然環境の変化と文明や技術、エネルギー需要の変化等、環境教育の充実が明記され、CO2削減や環境教育推進のため、また校舎は災害時の住民の避難場所となっていることから、電力不足を少しでも補うため、

平成23年度繰越明許費予算で小学校に太陽光発電システムを設置してまいります。

複雑化する発達障がいや肢体に障がいのある児童生徒に対する、指導体制の整備、環境整備を図ることが学校内における重要な課題であります。

特別支援教育連絡協議会を中心に各学校間や行政関係機関との連携、情報交換を行的確な指導体制の充実を図っていくと同時に、低学年の生活支援・学力向上支援のために生活支援職員を小学校に2名、中学校に1名を継続して配置いたします。

学習指導要領の改正により、英語学習が取り入れられる等、英語指導助手の果たす役割はますます重要性を増して来ております。保育所から高等学校、そして、親子英会話教室、地域行事、翻訳等幅広く活動し、学校や地域からも高く評価されている現在の英語指導助手を引き続き配置して、質の高い英語力向上を図ってまいります。

剣淵町の子どもたちに対する、特色ある事業であります友好都市さぬき市との児童交流事業、本年度は、さぬき市の子どもたちが剣

淵町を訪問する年となっております。この事業は遠く離れた気候・風土・文化の違った地で長期間にわたり、同世代の子どもたちとふれあうホームステイを基本とし、子どもたちが健やかに大きく成長していく上で貴重な体験をする意義のある事業であります。

ボランティアを基本とした事業でありませんが、時代背景、保護者の仕事、長期間のホームステイの関係から近年保護者の負担が非常に大きくなっていることから、支援金を支給し負担の軽減と事業の継続化を図っていきたくと思っております。事業実施にあたっては、さぬき市や保護者、教職員の皆様の特段のご理解とご協力をお願いいたします。

学校施設は児童生徒の学びの場であると同時に生活の場であります。児童生徒が安全で安心して学ぶことができ、快適に過ごすことのできる環境整備を図っていくことは極めて重要なことであります。

**小** 学校においては、快適な環境と子どもたちへの衛生教育のため平成23年度繰越明許費予算でトイレの洋式化と排水設備の改修を行います。その他、非常用防

災アンプの購入、花壇の移設工事、体育館外壁部分改修工事、アルミひな壇の購入等を予定しております。

**中** 学校においては、旧技術室屋根葺替工事、ルーフトレン設置備改修、テニスコートフェンスの修繕、クラリネットほか楽器の購入を予定しております。また、中学校は新学習指導要領が完全実施され新しい教育課程の編成のもとでの、新しい教科書を使った授業となり、教科の授業時数が増えたり、新しく武道や伝統音楽が取り入れられることにもなります。生徒・教職員の教材、指導書等、授業に支障がないよう併せて各学校の直接授業に影響するコンピューターリース等の関連事業、教育用備品、各種施設や機器の保守点検業務、委託業務についても子どもたちが安全で安心して学ぶことのできるよう万全を期してまいります。

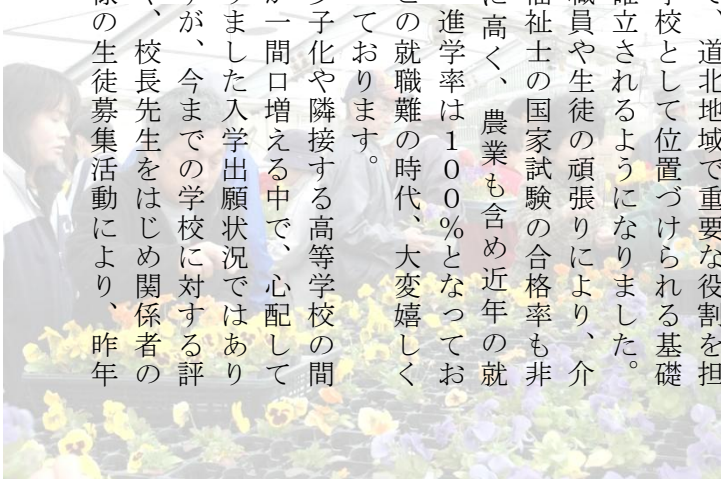
また、学校教育の成果は直接、児童生徒の指導に携わる教職員の資質や能力に負うことが大きいことから、校内研修をはじめ、町教育研究会や各種研修会、研究会への積極的な参加を通して教職員の

資質向上、指導力向上に努めてまいります。

**剣** 淵高等学校は、地域に学び、地域と共に生きる「花づくり、人づくり、ふる里づくり」をスローガンに、農業や福祉に関わる知識や技術を習得させ、地域社会の発展を担うことができる能力と、使命感を持った人材を育成することを目標としております。

「農業国際」と「生活福祉」の2系列体制を設定し、生徒の進路希望に合せた選択性の総合学科に転換し3年が経過します。農業と福祉のスペシャリストの養成校として、道北地域で重要な役割を担う学校として位置づけられる基礎が確立されるようになりました。教職員や生徒の頑張りにより、介護福祉士の国家試験の合格率も非常に高く、農業も含め近年の就職・進学率は100%となっております。この就職難の時代、大変嬉しく思っております。

少子化や隣接する高等学校の間口が一問口増える中で、心配しておりますが、今までの学校に対する評価や、校長先生をはじめ関係者の皆様の生徒募集活動により、昨年



同様の生徒数を確保することができそうであります。生徒募集に奔走、努力されました関係者の皆様に深く感謝と敬意を表します。

現代農業や地域農業の実態に即した、草花部門と耕作部門とのバランスの取れた農業の授業が行われ、安定した農場運営が確立されており、老朽化した農業作物実習室を平成23年度繰越明許費予算で建て替え、合せて乾燥機、初すり機の更新を行い農場機能の強化を図ってまいります。

整備された調理実習室や加工研究センターの機能を活用し、学校で採れた野菜・作物やペルー原産の作物を利用し、特産品や菓子づくりの製品化を目指し栽培から加工・販売に至るフードシステムの確立を図ってまいります。合せてペルー農園の拡充、さぬき市特産物の栽培研究を行い友好交流の一端を担ってまいります。

生活福祉についても福祉教育の資質向上、福祉施設設備の改善、福祉実習の充実を図り、全員が介護福祉士の国家資格が得られるよう質の高い教育活動を進めてまいります。

農業・福祉のさらなる教育の充

実を図り、より高度な教育を身につけるため、高大連携事業や公的指導機関、各種団体とのパートナーシップ協定に基づく特別講座等を積極的に推進してまいります。

また、高等学校の機能を十分發揮して、ボランティア活動、各学校に対する食農教育の支援、学社連携事業、地域への指導や行事参加協力等地域に根ざした開かれた学校としての役割を、生徒・教職員一丸となって果たして行きたいと思っております。

必須としている福祉関係施設の実習、農業現場学習で成果を上げている、海外、道内外の委託実習事業は、今年度も委託実習先等関係機関と十分協議し理解の上積極的に進めてまいります。なお、海外の委託実習は、今までアメリカ合衆国への派遣となっておりますが、安全面、実習先条件等が整えば近い将来姉妹都市締結したペルー国への派遣を視野に入れ検討していきたいと思っております。

学校給食は成長期にある子どもたちにとって正しい食事は、健全な心身を育むことや、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすこと、さらには学力、体力向上を図

る上で極めて重要な部分でありま

す。

地産地消を基本に、国内産の安全食材を活用した給食および衛生検査や清掃等の衛生管理に最新の注意を払い、安全で安心しておいしく食すことのできる学校給食に給食センター職員一丸となって努めてまいります。

東日本大震災に伴う原発事故により、農作物や加工品等の放射能汚染が問題視されております。地産地消、道内産食材使用を基本に給食を実施しておりますが、道外産の農作物、海産物、加工品等、時期により一部使用しなければならぬ状況下において、放射性物質の基準値を超えた給食を食べることとは、将来を担う子どもたちにとって心配されるところであり、安全安心を第一に考え、放射能測定機を導入し対応してまいります。

また、学校給食を通して、学校と連携した食育、食農教育の推進を図ってまいります。

今年度は、貫流蒸気ボイラーの交換、野菜脱水機、炊飯釜、配膳台の購入、厨房天井、配管修繕、調理器具の更新等を行い、調理の効率化と衛生管理の徹底を図ってま

います。

## 社会教育の推進

私たちを取り巻く環境と社会情勢は、国際化の進展、情報技術の進歩と多様化、科学技術の進展、少子高齢化等大きく変化し多岐にわたる、様々な問題が生じてきており、それに対応するために私たちは常に新しい知識や技術・感性を身につけなければなりません。

激動する時代の流れの中で、市民は「健康で生きがいのある豊かな生活と心の充実」を強く望んでおります。

これを実現するためには町民一人ひとりが人格を磨き、その生涯にわたって、元気であらゆる機会に、あらゆる場所において誰でも学習することができ、その成果を生かすことのできる教育環境の整備、充実が必要であり、社会教育の果たす役割は極めて重要であります。

生涯にわたる多様な学びは、個人の人生にとっても、社会にとっても将来を切り拓く鍵であり、生涯学習社会の実現に向けて、中期ビジョンの改革意欲を持って積極的に取り組んでいきたいと考え

ております。

社会教育法が改正され、学校教育・家庭教育との連携努力の義務化、家庭教育の情報提供対応や放課後および学習機会の提供等が新たに加えられ、これら事業推進に向けた教育環境の整備・充実により一層図ってまいります。

社会教育の事業の推進にあたっては、第10次剣淵町中期社会教育振興計画を基本に、第5期剣淵町総合計画との整合性を図りながら、上川教育推進プラン、教育委員会評価、議会や諸会議、町民の意見、要望事項をもとに事業推進を図ってまいります。

地域全体で学校を支援し、子どもたちを育てる目的で行っている、学校支援地域本部事業を積極的に改善を加えながら推進していききたいと思っております。特に基礎学力の向上を目指し実施した、習字教室・そろばん教室について多くの子どもたちが受講し成果を上げているところであり、本年度も反省点をふまえ改善を加え実施してまいります。また、学習習慣、生活習慣の定着化を図るため実施した生活力レンダラーの作成についても意識の高揚が見られることから、

学校や保護者の協力のもと改善を加え実施してまいります。そのほか、教育を考える集い等の研修会、こども110番の家、学校スキー授業の支援、学校農園の支援、こどもを見守るパトロール事業等継続して実施してまいります。

## 絵

本の館は生涯学習の場である文化の創造の発信基地であり、協働のまちづくりの活動拠点として重要な役割を担っております。また、道内外は勿論、最近では近隣の保育所や学校から多くの子どもたちの来館も増え地域の教育機関として重要な役割を担っております。

絵本の里大賞も今年で22回目を迎え、来館者が選ぶ賞として定着、絵本の中に剣淵の題材や、けんぶち絵本の里大賞受賞を入れる等、作家や出版社からも高く評価される権威のある賞として確立されるまでとなりました。

近年剣淵町の子どもたちは、いじめ、校内暴力、虐待等が全くといって良いくらいありません。これも長年にわたる絵本の里づくり活動により、優しく、心豊かに、健全な心と体の育成、学力向上に繋がっていると確信しております。

絵本の里を創ろう会の皆様や支援を頂いております関係機関の皆様に対し心から感謝申し上げます。

本年度も、年度計画に基づき一般書、絵本の充実を図るとともに、学校や関係機関との連携を図りながら、巡回文庫、読み聞かせ、わくわく放課後タイム、ちびっこ遊びタイム、大人のホットタイム、ブックスタート事業、ペルー国写真展等、絵本普及事業を積極的に進めてまいります。

また、第22回絵本の里大賞、絵本まつり、絵本原画展等の事業について、絵本の里づくり実行委員会や絵本の里を創ろう会、各関係機関の協力のもと継続して実施いたします。

要望のあった、平成27年度、剣淵町で開催予定の全国紙芝居大会に向けてのプレ大会への派遣、紙芝居講座等を支援していくと同時に継続して、絵本の里づくり実行委員会、絵本の里を創ろう会に対し支援してまいります。

平波大学は昨年、研究科を新たに設け在籍期間を2年延長し8年としたところでありますが、入学生が依然として少なく課題となっているところであります。少子高

齢化時代を迎え、平波大学のような高齢者の果たす役割は非常に大きいものがあると思っております。自ら学び研鑽を積むという目的もありませんが、各種ボランティア活動、学校との連携事業、他町との交流事業、クラブ活動における様々な文化活動等幅広く地域に貢献しております。今年4町高齢者大学研修会の当番町、平波大学修学旅行の年でもあります。生涯学習推進アドバイザーの指導のもと平波大学運営の適正化を図ってまいります。

貴重な文化財保存・伝承のため、昨年収録を終えた長編の文化財映像を短編化し資料館、公共施設、学校のふる里教材として活用してまいります。また、資料館の利用促進のため特別企画展の開催を予定しております。

昨年改修し稼働しはじめた、りんどろ交流館であります。各種団体の活動、研修会、会議室、懇談会の場として、旧社会福祉センター以上に効率的に活用されており。本年度は、より安全で安心して快適に利用していただけるよう、消防用設備、網戸の設置、玄関前修繕等の施設設備の充実を

図ってまいります。

国際交流事業については、本年度も国際交流センターや剣淵町国際交流の会の協力によりホームステイを基本としながら、地域住民、文化団体、学校交流を中心に進めてまいります。

町制施行50周年記念事業として、札幌交響楽団の演奏会、文化講演会を予定しておりますので、多くの町民の皆様の聴講をご期待申し上げます。

新しいまちづくり運動については、町民自らが、時代に即した生活を確立し、物心両面から明るく住みよいまちを築くことを目標とした協働のまちづくりの運動でもありません。事業推進にあたっては、新しいまちづくり運動推進委員会の中で十分協議し進めていきたいと思っております。

中心的事業であります、全町一斉クリーン作戦、花いっぱい運動等の事業を各自治会や関係機関と連携協議の上、積極的に推進してまいります。

文化協会、体育協会等の社会教育・社会体育関係団体の自主的活動に対しては継続支援してまいります。併せて、教育委員会や各協

会で行なっている表彰規定に基づく表彰式典を一括して実施していく方向で検討、協議してまいります。

また、屯田太鼓・剣淵神楽の郷土芸能や指定文化財等についても、継承団体に支援等を行い保存に努めてまいります。

社会教育各種委託事業、少年団体リーダー養成事業、読書感想文コンクール、児童生徒作品展、芸術鑑賞会の提供事業、公民館講座等内容を精査しながら継続して実施いたします。

また、分館活動交付金の交付や社会教育団体、公民館分館等が自主的に企画、実施する分館講座の開設、文化祭事業についても引き続き支援してまいります。

B & G体育館の利用促進、町民皆スポーツを目指し、スポーツ推進委員の指導のもとフロアカーリング、スポーツ吹き矢、テニポン、フロアボートリング等、誰にでも気軽に楽しめる軽スポーツの普及に努めてまいります。また、機材を更新し海洋性スポーツの普及促進を図ると同時に子どもたちの海洋クラブ員入会を検討し、青少年の健全育成、B & G艇庫等の利用促

進に努めていきたいと思っております。

一部破損し危険性の高いプール内幼児・低学年用プールフロア1台の更新を行い安全確保に努めるとともに、部外からの指導者を招き、中級者向けの水泳教室の充実を図ってまいります。

B & G財団が主催する、海洋セミナー事業、海洋体験クルーズ事業、指導者養成研修会、海洋スポーツ大会、海洋センター長、セン

ター育成士が出席する会議や研修会に積極的に参加してまいります。老朽化してきている武道館の屋根、外壁塗装工事を行い、適正な施設の維持管理に努めるとともに、武道の国際ルールに対応した競技用スポーツカウンターを購入し、競技大会運営の適正化を図ってまいります。

年次計画で整備している平波球場は、本年度は外野フェンスの一部塗装、時計の移設設置、スコアボードカウント表示の入れ替え、盛土スタンド階段設置、放送機器の更新を行い、利用環境の整備を図ってまいります。

各種スポーツ教室、スポーツ大会の開催委託事業、アクティブキ

ッズ事業、町民ミニバレーボール大会等の実施にあたり、多くの子どもたちや一般町民が参加してもらえるよう、各自治会や関係機関・団体に働きかけ進めてまいります。

各種スポーツ大会への参加派遣、生涯学習活動団体交通費助成事業、生涯学習活動推進事業、スキーリフトシーズン券助成事業について町民の活用要望も多いことから内容を精査し、時代に即した利用しやすい補助制度となるよう検討を加え積極的に事業を進めてまいります。

その他社会教育・社会体育施設の維持については利用者の利便性に配慮し、安全で安心して学び、快適にスポーツを楽しむことのできるよう、最善の注意を払い環境整備の充実を図り、適正な施設の維持管理に努めてまいります。

教育委員会に課せられた使命や責任を深く認識し、町長部局や関係機関、各種団体と密接に連携を図りながら教育環境の整備、充実に努めてまいります。

一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。